

第 24 回 国立市これからの公共施設の在り方審議会 議事要旨(記録)

日時	令和 6 年 9 月 25 日(水) 17:30~19:20
場所	国立市役所2階 委員会室
出席委員 (五十音順)	(会長) 朝日ちさと 委員 (副会長) 喜連元昭 委員 羽川綾子 委員、湯浅かさね 委員、桂 耕史 委員、柳田憲一 委員 島辻秀和 委員、福田研一 委員、熊谷豊 委員
欠席	なし
説明員 (事務局)	宮崎政策経営部長、小宮資産活用担当課長
傍聴者	なし

○議題

1. ストックマネジメント事業の評価手法等について

○配付資料

- ・資料 No.24-1 今年度の審議会運営について
- ・資料 No.24-2 第1期期間中の計画と実績
- ・補足資料1 総合管理計画に基づく個別計画一覧
- ・補足資料2 延床面積の推移(実績)

議題1. 今年度の会議運営について

□朝日会長

昨年度に公共施設等総合管理計画改訂版の策定を行った。また、3年前には公共施設再編計画が策定されている。総務省の総合管理計画策定指針においても、その計画の進捗管理と振り返りを行いながら取り組んでいくことされており、国立市の計画にもこの点について触れられている。

そこで、本審議会が所管とする公共施設マネジメントの取り組み状況について市より報告を受け、皆様で意見交換をしながら、どのような評価していくことが望ましいか今後の取り組みにつなげていくための評価ということについて、考えてまいりたい。

- 事務局 資料 No.24-1 (項目1~3) << 説明 >>
(質問・意見なし)

■事務局 資料 No.24-1 (項目4)、資料 No.24-2 << 説明 >>

□熊谷委員

実績の話はこれから具体的にどこか(別の回)で説明されるのか、今回の説明で終わりか。

■事務局

実績のお話として、個々の具体的内容の説明を別で設ける予定はない。

□朝日会長

個々の施設の細かい状況というより、全体の進捗を見ていくという捉え方か。

■事務局

その通りである。

□熊谷委員

全体的にこういうところが問題だったとか、こういうことが大きな岐路になったと言ったような説明が今後事務局からされるのか、それとも各自で確認するということか。

■事務局

具体的な個々の建物ではなくて、全体の話をするを想定しているが、今回は初回ということで、まずは作成した当時の状況からどのような変化があるかということ示させていただいた。

今後、どのように説明していくかは皆様の意見を聞きながら、評価方法に合わせて考えていきたい。

□朝日会長

少し方針を変えたとか、いくつかの事情があったと思う。それらを踏まえながら、評価の観点を考えていくところがあるかと思う。

■事務局 資料 No.24-1 (項目5) << 説明 >>

(質問・意見なし)

□羽川委員

建物の大きさや用途という点に関する評価の資料だったと受け止めたが、この評価の対象として施設に係る運営費など、マネジメント費用については扱わないのか。資料として使えると思うがいかがか。

■事務局

ご意見の費用は、計画でいう管理運営のコストに係る内容かと思う。

建物が削減されることによって管理運営費も縮減されていくという考えで管理運営費の目標値を設定している。

しかし、策定当初以降、光熱費など物価等の上昇などもあり、その率を含めた目標値に対する実績というものも精査できていないところである。現在、その精査と比較の方法を検討しているところであり、今回資料として提出するには間に合わなかった。

□羽川委員

施設の設置基準など、計画策定時になかった、あるいは予想できなかった新たな要素や要因などを「この時期に、このような基準見直しがあった。」という明記をする必要があると思う。

選択の余地がなく、増やさざるを得ない状況であったということを表示すれば、見えやすいと思う。

床面積の縮減という基本方針だけの評価としてしまうと、なかなかその辺の状況や他の政策が見えにくいので、別枠で説明を加えるという方法も有りかと思う。

□朝日会長

次の項目である評価の観点のところにも関わってくるご意見だったかと思う。

最初の質問であったように、面積に比例して管理等のコストも見るという仕組みが、現在の状況で上手く比例できるのかというのは分析してみないと分からないというところがあるので、物価高の影響なのか、あるいはその建物の性能の変化なのかなどの整理を可能な限りお願いしたい。

□熊谷委員

今のご質問、ご意見と少し関連するが、総合管理計画の40ページにある基本方針と目標の関係性に対して、運営コストや建設コスト、あるいは市民ニーズを捉えた魅力的な施設整備、どういう尺度があるかというのは難しいが、そういう視点で順調に行われているのか、それとも何か問題になっているのかが見えれば、少しわかりやすくなるかなと思う。

□朝日会長

評価観点のご意見もいただいているが、次の項目にも関わってくるので事務局より項目6について説明をお願いしたい。

■事務局 資料 No.24-1 (項目6) << 説明 >>

□朝日会長

定性評価という視点で案の提示があった。

計画の性質上、面積が前提になっている目標がある中で、先ほど事務局より説明があったようにその推移を見てみると、それぞれの事情がある中で目標値に対して凸凹が生じている。

面積が減って良かった悪かったというよりも、どういった事情が生じているのかという中身を確認するための拠り所というのが、この定性評価という視点かと思う。

まず1点目は、基本方針の観点からどうか、2点目が数値に表れないけれども取り組んできていること、それから3点目が公共施設の在り方に影響があるような社会情勢やニーズの変化という観点の3つの視点について提示があった。

□湯浅委員

この定性評価という部分は非常に大事な視点かと思う。公共施設マネジメントの評価点は、ほとんどが定量評価だけで終わってしまっているというところで、これがきちんと設定されると、今後おそらく、他の自治体から参照されるような基準になるのかと思う。

示されている視点は今後の評価にあたっての原案みたいなものかと思うが、今回、中間評価が行われるということで、現時点で、この定性評価に関する目標設定というものは具体的にはされていないで、ここで視点が挙げられこれから設定されていくと認識している。

この定性評価が中間評価を経て、次の評価のタイミングとか、あるいはそれ以降も踏まえ含めて、定量評価と併せて定性的な目標設定もされるという、そういう認識で良いか。

■事務局

今回の中間評価に関しては、各計画の策定当時、特に総合管理計画に関しましては、大きい方針とそれに基づく実行の個別の方針がある。

この中間評価の中で目標を変えていくというよりも、2029年あるいは2027年の計画を見直す時に、その中身も変えていくような形になろうかなと考えている。

今回の中間評価においては様々ご意見を頂く中で、新たに認識していかなければならない視点というご意見も頂ければと思っている。計画の記載内容に関しては、最終的に計画自体を変えるタイミングで改めて設定していきたいと思う。

□湯淺委員

今回は中間ならではのプロセスを評価するという、そういう取り組みであるということか。

■事務局

そのように考えている。

□湯淺委員

質問した主旨は、今回は何のための評価かというところに立ち戻ると、計画をきちんと遂行していくためだと思う。

今回の評価は公共施設マネジメント事業全体の総括であり、個々の評価では無いということかと思うので、今回の場合では政策経営部が被評価者となると思うが、自身がその目標に向かってのプロセスを描ける状態の評価がなされるべきであり、その辺りが大事と考えている。

面積に表れない、数字では分からない部分での取り組みという内容にも少し関わってくるかと思うが、数値では表しづらい新たな取り組みという例を2つ挙げられているが、こういう取り組み自体がまずは評価されるべきと思う。

今の例に関しては工期短縮とか、人件費削減とか、ある意味少し数値的に表すことができそうな部分もあるかなと思いついて、改めて概要でも構わないので、そういうデータのものが定性評価の中にも一部判断できる根拠として入ってくると、より高評価しやすいかなと思った。

□羽川委員

総合管理計画で評価についてずばり書いているところはないが、例えば、目標設定のところで、将来的に考えればその目標自体が現状において妥当かみたいな切り口や、事情や状況を記録していくなども必要なことかと思う。

□朝日会長

評価のそもそもの意義が何なのかというところ、それと、将来的に目標の見直しもあり得るという視点もあるというご意見であった。

□福田委員

理解の整理をさせていただきたいが、今回の評価のところで、まず定量については、床面積の縮減、これが大前提にあり、今回、事務局から提案されているものはそれに定性評価を加えるということであると認識した。その背景としては、定量として延床面積を見たときに、計画に対して様々な要件というか要素により、凸凹が生じてフィルターがかかり過ぎて分かり難いという状況なので、そこに補足情報として定性評価を加えることにより、なぜ凸凹が生じているのかということの説明するという理解で良いか。

■事務局

委員おっしゃる通りである。

□福田委員

定性評価だが、定量評価のところで、先ほど運営費のところについても見たいというような他の委員の意見もあったが、私も同意見であり実際にその対面積に対してどの程度かかっていたのかとその内訳も見ていくことは大切であろうと考えている。

切り口が定性から少し離れるかもしれないが、投資効果という観点もあるではないかと思った。

具体的に言うと、矢川プラスを例にすると、面積が決まっていて、1年間当たりの運営費や入場者数あるいは様々な催しやイベントの開催数も明確に分かっている。そのあたりをランニングコストとして比較してみたときに、1人当たりどの程度かかっているのか、投資した金額は幾らであるといった視点からの評価値というのが出せるのかなと考えた。

これが既存の施設と比較してどうなのかというのを見てみる価値はあると思う。つまり、新しく造ったものについては効果が高いという見せ方も1つあるものと考えている。延床面積が増えるという一時的な側面はあるにしても、それだけの効果は十分に出しているということも、見せ方としてはあるかと思う。

建てて終わりではなくて、その建物がどれだけの効果を出しているのかといったようなところをしっかりと、市民の皆さんに分かりやすく開示するといった視点もあっても良いと思う。

旧国立駅舎も、少し評価の仕方が難しいかもしれないが、利用頻度がこの程度なので、投資に対する効果はこれですという言い方というのもありかもしれない。

事務局より出された案の内容も大切なことだと思うが、数値で見せられる部分があるのであれば、極力数値化し、5年先、10年先に比較がしやすくなると思う。ある意味で定量ということになるのかもしれないが、色々な側面で説明がしやすくなるであろうということもあるので、少しここは検討していく価値はあると思う。

□朝日会長

投資効果という視点が今回の評価の中でどういった位置付けにあるかという点について、事務局は現時点でどのように考えるか。

■事務局

投資効果といったところまでは検討していなかった。委員からお話いただいた矢川プラスも当初の来場見込みよりもかなり多く、年間32万人ぐらいだったかと思うが非常に盛況であると聞いている。目標値とは異なる部分ではあるが、そういった点も評価として出来るか検討したい。

□福田委員

私自身が、この夏かなり矢川プラスを利用した。本当に盛況であり、朝から夜まで人がひっきりなしに入ってきていて、いろいろな年代層の人たちが来て席がどんどん埋まっていくぐらい盛況であった。

何がこんなに良いのかと思ったときに、やはり居心地がものすごく良くて、まず1つは空調がしっかり効いており、かつ、あまりうるさくない。なので、勉強などもしっかりできるといったところで多世代の人たちの利用率が高いのだなと思った。

一方で、中央図書館の3階にも矢川プラスと同じような閲覧するスペースがあるが、暑くて座ってられない。

私も1時間ほど利用していたが、同じように感じていらっしゃる方が多いのか、入ってきてすぐ出て行かれる方がとても多い。1階に行くと比較的涼しいが、30何度という日が続く中で涼しい場所が少ないということで、おそらく利用率にも影響していると思う。

そういった点からも、施設に対して掛けている費用等を鑑みたときに、矢川プラスの方が圧倒的にその効果が高いであろうというのは肌身を感じたところだったので、参考にさせていただきたい。

□朝日会長

計画で目標としたものをちゃんとやっているという、説明責任的なサマティブ(summative:総括的)な評価が当然ある。

それと定性評価。事務局の説明でもあったように次の計画に生かしていくという意味で、現状見てどのよう改善したら良いかというフォーマティブ(formative:形成的)な改善のための評価という2種類があり、やはり分けておいた方が良いと思う。

目標に対してどうだったかというサマティブな評価はきちんとしつつも、その中身を分析する、訂正のところでは、今後どうしていくべきかという材料になるようなところがやはり必要なと思う。その点で説明責任として、期待された効果がきちんとあったのかという視点。おそらく、施設の場合にはそれぞれ効果とされる目的が違って、人が多く入っていることが評価な施設もあれば、そうではない施設もあつたりするのが難しい。

PDCA 評価が計画中に書いてあるが、なかなか具体的な評価を明記することは難しいかと思う。

なので、投資効果など、効果の部分の評価するときに説明責任的にやるのは少し難しい気がする。この施設はこの目的、この効果を出すべきだという点は大事なことだが、それを総合的な計画である再編計画で明記し評価として扱うことは難しいと思う。それよりも、効果の議論も含め、今後のための評価という位置付けをした方が良い部分もあるのではないかと思う。

もちろん、こういう目的でこの施設を整備するという説明責任はあるが、それにとどまらない部分という点も出てきて、それが次の施設整備や計画に役立つということもある。

両面で見えていたら良いではないかなと各委員の話聞いていて思った。

□熊谷委員

私が感じているのは、基本方針が3つあり、それに対して具体的なパラメータとしてコストの削減というのはあるが、定量評価も工夫次第では色々できると思う。

大方針に基づいて進められているかどうかという話はやはり全体として、コストや面積が削減されているかということは大事な話だが、本来は公共施設を造る時に面積を小さくしましょうというのではなく、充実したものを造ることだと思う。

ところが、財政状況、予算だとかコストとか財源の問題などがある。それを確実に進めていく手段の1つとして、面積を小さくすることを設定しているものだと考えている。

なので、面積目標の設定ありきではなくて、結果として、財源だったり、トータルコストが下がったりする。だから、やはり定性的なところだけじゃなく、定量的なところについても、少しでも見えるような形にしなければいけないと思う。

そういう意味で、財政とかコストに関してはもう少し検証してほしいという趣旨で先ほど話をした。それ以外に、例えば図書館でも矢川プラスでも何でもそうだが、利用者数だとか、利用している年齢の構成、来館時間、それからその建物あたり利用者数がどう変わっていくかというものをパラメータにしてしまえば、少なくとも個別では上手くいっているとか、上手くいっていないというのは分かるはず。

なので、基本方針に基づいたものに対して、上手くいっているか、いっていないかという評価パラメータと個別計画に対する評価パラメータを用意すれば良いのではないかと思う。

それと、計画が予定通り進められていないところがあるとか、ないとかという話があるが、それは様々な事情があると思う。例えば総合体育館は初年度から前倒しており、消防分団についても前倒し、分散させている。その事情がどのような事情だったかということも、クールに考えて、この計画が変わった原因は一体何だろうかということを考えて、責任追及するとか、計画が進んでいないということではなくて、何らかの事情が生じたから計画を変更せざるを得なくなったという経緯となるものをきちっと押さえておけば、今後、個々の施設の計画を策定する際などで非常に参考になると思う。

なので、策定時に想定していなかったものは何であったかということをちゃんと吟味し、反省してフィードバックをかければ、より精度の高いものができ上がっていくと思う。

全体の流れがちゃんと見えるような評価と、個別計画に対してうまくいったかどうかの評価、それが元々の計画と違った場合には、その原因を正しくチェックして、それを次の新たな計画に反映させるといったことがバランスよく出来れば、いい方向性になっていくのではないかと思う。

□朝日会長

今の話は、事務局案で視点が3つ出ているところ全体的総括となっているところとは別に評価したい、評価できるのではないかといいことか。

□熊谷委員

その通り、全体評価ではなく、個別の評価としてという意味である。

□朝日会長

全体総括に至るところの関係ということにもなるかと思う。

□羽川委員

将来的な評価として、稼働率や利用者数という情報を取るということは、避けて通れなくなってくるかと思う。

理由としては、基本方針でも複合的な施設にするとか、給食ステーションのアレルギー対応専用室とか、矢川プラスなど先進的な取り組みなど、色々なニーズに応える、新しい形の建物の使い方というのが出てくる。そうは言っても、人口が縮小傾向の中で床面積は減らしていかないと物理的に維持が難しいという、避けて通れない事実があり、民間の建物では「効率的な稼働率」と言われるが、空室率とか稼働率とか、それと似たようなデータを取っていかないと、そういう情報がなければ、AとBの施設を合わせて朝も夜も稼働させようみたいな、シミュレーションもできないと思う。

なので、そういうデータを徐々に集め、仮定を含めた想定を政策側でシミュレーションしてくということが必要になってくると思う。

また、技術的なことを申し上げると、資料 No.24-2「計画と実績」の表があるが、タイトルは23年から27年と書いてあるが表は29年まで表現されている。技術系の実務レベルの立場で見ると、単純にこれだけの（工事）件数を一気に発注するのは単年度単位の発注業務としては相当重そうだなという印象を受ける。効率的にやろうとするのであれば、類似の工事発注をどれぐらいまとめられるかとか、時期をずらせるものと、法定など必ずやらなければならないものの振り分けを行いつつ、全体的に少しずつ見直していければ支出に対する効果が出てくると思う。

仮にこの表を書くとしたら、例えば、28年、29年は28年以降ということで大きな項目にしてしまい、この大きな項目に先送りできる可能性があるものはどの工事だとか、必ず27年より前にやらなければいけないものはどれ、みたいな振り分けをする。そうすると、単年度当たりの工事費の支出が適切に抑制できるという効果が、見やすくなると思う。

□朝日会長

1点目は効果、ニーズデータについてのご意見、2点目はコスト平準化に資するような計画の示し方のご意見で、将来の課題というところで、仕分けをするというご意見かと思う。

事務局よりこの対応あるいは考え方について、説明や考えなどあるか。

■事務局

まず、委員の皆様のご意見をいただきたいところだが、先ほど湯浅委員よりご意見があったように、その評価の対象とするところだが、ここまで説明させていただいたことは公共施設マネジメント全体についてである。よって、今回の対象はこの基本方針に基づいて、事業全体が進められているかどうかというところの評価であり、それを所管する政策経営部資産活用担当が評価対象とされるところと考えている。

一方で、その個別の建物、個別の施設がどう進めてきているかということもあるが、それをこの審議会でやられるとなると、かなり時間も必要で細かい部分になってきてしまうと思う。まず、ご意見頂きたいのは中間評価として、公共施設マネジメント事業全体が、方針に基づいて進められてきているかどうかというようなところをご議論いただくことが、必要なことで分かりやすいかと思う。

その上で、幾つか新規施設をピックアップして評価するということが出来るとは思えないが、そのあたりのご意見も頂きたいと考えている。

また、羽川委員よりご意見があった、やらなければいけないものと先送りできるものの表現だが、今見いただいている資料 No.24-2 は再編計画に記載しているものがどのように進んでいるかというところを示したものであることから、ご意見いただいたことを反映させることについては、今後の最終評価的な部分、

計画を見直す際に、次につなげていけるような点として考えていければと思っている。

□島辻委員

事務局の説明を含め1点確認したいが、資料 No.24-1 で所掌事務の第2条第2項が今回該当するということだが、当該条項ではあくまでも市長から公共施設マネジメントの進捗状況について報告を受けるとともに、市長に対して助言することなので、昨年度作った総合管理計画が上段にあり、それぞれ個別の計画が動いている中で今回の評価を踏まえ、「市長、どうですか。これ、こういう状況になっていますが、少し急いだ方が良いのではないですか。」とか「もう少しこの部分改善したら良いのではないですか。」という方向性をこの会議の中でお示しするという考え方でよろしいのでしょうか。

■事務局

先ほどの基本方針の中でお示した部分で、「こういった部分の観点がまだ少ないのではないか。」とか、「公民連携の部分でもっと何か積極的に検討できる部分があるのではないか」とか、そのようなご意見を頂きたいと考えている。公民連携を例にすれば、新たな手法等が多くの自治体で取り組まれてきている中で、国立市においても、そういったものの導入を検討することで工事費全体の削減だとか、より良い進め方になるのではないかというようなご意見を頂戴できれば、それが評価に繋がっていく、市長への助言に繋がっていくものと思っている。

□島辻委員

総合管理計画を作る段階で、延床面積については例えば小学校、中学校は将来的には再編して大きく面積を減らすことも可能性としてあるという話も以前に伺った記憶がある。現在のところは、補足資料にあるように時期を少しずつずらしながら計画を進めてきているが、施設の延命も図りながらも将来的にはどこかで建て替えなければならない。

予算が潤沢にあるわけではないので、選択と集中の考え方も入れながら複合化していくなど、計画を作る段階で様々な意見が皆さんからあったように記憶している。

私の専門的な立場で言えば防災という面で、逆に他の委員の皆さんそれぞれのご専門の目線で、色々な評価ができるのではないかと考えている。

そういったなかで、それらを総合して評価していくというのはなかなか難しいのではないと思うが、1つの目線、やり方としては先ほどより挙げられている延床面積で見ているというものがあるので、これを基に、現在のやり方が今のところ順調なのかどうかというのを確認していくと良いと思う。

□熊谷委員

今のご意見、非常にそうだなと思った。昨年度、1年かけて、総合管理計画を見直して、審議会で審議してこうしたら良いのではないかというものを答申した立場から言えば、その後、こういう計画はこうあるべきですよという話を蒸し返す必要は全くないと思う。むしろ立場的にはおかしい。

自分たちが答申、提案した計画で確認したものであり、今、無駄なものがない。

だから、定性評価としてこういう形で評価することができるじゃないですかという後追いで、色々なサジェスション(suggestion:示唆)を差し上げるということが今回のミッションかなというふうな、今ご意見を聞きながら思ったところである。

■事務局

今お話しいただいた通り、こういった評価の仕方があるのではないかとというようなところでご意見いただければと思う。その上で、今回お示しさせていた3つの視点は、事務局ではこういったところがあると思うという提案であり、委員の皆さまはどういった視点だとか、お考えがあるかなどというご意見を頂きたい。

□喜連副会長

私もシンプルに考えていた。この評価は何のためにやるのか。計画通り進んでいけば問題ないし、計画通り進まなかった場合にどう対応していくかという、また新たなことを考え、実行する。

おそらく、これらを認識するために必要なことの手段だと思っている。結局、この評価というのは実績が今どう進んでいるのかということと同時に、もう1つは計画が本当に正しかったかどうかということも評価の対象になるのではないかと考えている。

それを確認していくためには、もちろん定性的評価とか、個別の事情で時期のずれはあるが、もう少し大きいくくりで計画がどれくらい進んでいるとか、達成率が今どうなっているかとかいう、マクロ的な物差しを持ってから見ないと、個別の事情を色々いま付度しながらやっていると、評価というものができなくなるのではないかと気がする。

お願いしたいのは、島辻委員がご意見されたように、この大きな方針の中にある中からピックアップしたシンプルな指標を幾つか取り上げ、それを基に審議していったら良いのではないかと思う。例えば延床面積とか、ランニングコスト、総コストが概ね計画通りに進められているかとかいう大きな指標を基に、それを分析してから、個別の事情に入っていく方が良いかと思う。

□朝日会長

資料 No24-1 で「数字にはあらわれない部分での取り組み」とある。ここで指す数字というのは、先ほどから挙げられている工期短縮とか人件費とか、あるいは代表的な面積とかコストとかに表れないという理解で良いか。

■事務局

実際、実現しなかった事例も含め、コスト削減に向けた検討など取り組んできたものである。

この取組や工法、手法、製品が削減効果や効率性につながるのではないか、管理運営費の削減につながるのではないかというのや、他で実施されているが果たして国立市で実現可能性がどうかというようなものについての検証も行ってきた。

実現（事業化）には至っていないが、市として歳出縮減に向けた取組み、検証もしているという姿勢をお伝えするため示したところである。

□朝日会長

定量目標があって、そこに資するところ、ゆくゆくはその定量評価にも繋がっていくようなことと理解した。

■事務局

今回ストックマネジメントという観点で、なぜ私ども政策経営部政策経営課が所管しているかということ

考えると、そもそも現在の公共施設の状況からすると将来に向かって、この建て替えが必要になってきたときに今のまま単純に建て替えを進めていったら、財政的に持たないという現実がある。

そのため、将来を見越してどのように必要な機能を維持しつつ、建物の整備、再整備していったらいいか、そのためにこの公共施設の在り方審議会を設けさせていただき、その役割は公共施設の在り方に関する事項について調査及び、審議をお願いするものである。これまで審議会に諮問し、協議していただいたのは、将来に向けてどのような建て替えの方針で行って行けば、市民の生活を維持しつつ、対応していけるかという総合管理計画あるいは公共施設再編計画を作るための知見を頂きたいというものであり、建築や財政専門の学識の皆様に入っていたいただいたという経過である。

なので、計画に従ってしっかりやりなさいということは大前提であり、それに従ってまず定量的にきちんと出来ているかどうかというのは最初に評価すべきであろうと考える。

ただし、先送りされたり新たなものが入ってきたりといったところで、様々状況が変わってくるので単純に毎年定量的な評価をすることが難しく、当然、次の計画更新にあたっては、その段階で可能な範囲の定量的な評価をしていただきながら、一方で、その定量的に達成できているからといって、振り返ったときに、それで将来に向けて正しいのかどうかというのは、また見直さなければならない。

現状、中間評価においては、建て替えがあったものについては例えば定量的にきちんとできているか、あるいはライフサイクルコストが抑えられるような状況になっているかという面も見えていただきながら、定性的な部分で、今後に向けても、例えばこういった部分が活かせるので、そういったところは、今後の事業で必要な視点じゃないかなど、全体評価していただきたいと思う。

数値で評価できることはしつつ、補足意見のような形で中間評価し、その先の新たな見直しをするときには更に活かして、将来に向けて見直していければと思っている。

見直しの時期や新たに施設を造る時期、あるいは中間評価の時期以外であっても継続的にやっていくべきというもの、現状においてこういう課題があってそれについてどのように考えていくべきかというものも、各分野あるいは市民代表の委員の皆様にご意見をいただきながら、行政としてどう進めていくかという判断材料として活かしていきたいと考えている。

□朝日会長

定量的な評価は計画に基づく定量的評価を大前提とし、それに対し、定性的評価の部分は実績を踏まえて補足的というような、プラスアルファでというようなところの意図が強いものと認識した。

□熊谷委員

細かくなるが、考えてみれば、この公共施設に対する計画の実態がどうなっているかという評価は、国立市だけの問題ではなくて、26市、東京都も共通な課題だと思う。本来ならば、公共施設に対する評価方法というのを、自治体ごとに変わるのはおかしな話であって、1つの流れの中で大体集約されるようなものが当然出てくると思う。

そういう意味では、他の自治体と情報交換をする意味があると思う。一方で、自治体として目指している方向性は違うと思う。

人口の流入を多くし、何とか財政を豊かにするというだけではなくて、文教都市とか、自然とか色々なもの

を考えて、国立らしい市にしたいという意欲を市民も行政も持っている。そういう意味では、共通な課題であると同時に、国立市らしい評価ファクターがあれば嬉しい。

□福田委員

今のご意見、少し関わるかもしれないが、資料 No.24-1 の6の項目にある全体的総括の基本方針1。

市民ニーズをとらえた魅力的な施設整備ということで、この市民ニーズが何かというのは多分今の話に集約されていると思う。それに対し、その右側に書いてあるところは施設の点検マニュアルということで私はすごく違和感がある。基本に立ち返って、市民ニーズに対して施設整備がどうなのか、施設がどうなのかというふうな視点で、シンプルに捉えていくことによって、評価というのはもう少しクリアになるかなと思う。

話が戻るが、矢川プラスであればこういう目的で、こういう施設を目指していた結果、いま年間32万人もの予想以上の人たちに利用していただいている。アンケートなどでそれぞれの声、意見を集めるとより明確になるだろうと思う。

また一方で、更新を控えている施設あるいは複合化検討の対象になっているような施設についても、同様に利用率等も含めた数字や、その利用者の方々、そのほか自治会など関係する方々、ステークホルダーの人たちのご意見がどうなのかといったところを丁寧に拾うことによって、同じように評価していけるのか、要はこの市民ニーズをどういうふうに我々が捉えているのか、それを市長に対してアドバイスをしていくという立ち位置がシンプルかと思う。

□朝日会長

基本方針のところは鍵になってくるところかなと思うが、事務局の方で補足説明などあるか。

■事務局

今回の書き方が分かり難かったかと思うが、例えば基本方針1のところでは今回挙げさせていただいた部分は1例として挙げたものであり、基本方針1には3つ項目がある。①市民ニーズ、②安心安全③まちの魅力を高めるということで、今回は例として①のみ書いた。このような形で総括、定性評価をしてはどうかというご意見を頂ければ、今後ここへ肉付けをしていきたいと考えている。

□朝日会長

先ほど説明のところであったように基本方針1には小項目が3つあり、基本方針2にも6つある。それぞれの観点で見たときに、今後、その中身の議論をお願いすることになっていくかと思う。

事務局の方でもう少し補足したい点はあるか。

■事務局

本日ご議論いただいて、やはりこの評価の仕方は非常に難しいというのが率直な感想である。

頂いたご意見をまとめ、会長と本日の内容を整理させていただき、他市の状況も改めて収集しながら、次回まとめたものをご提示した。

□朝日会長

全体的には視点の構成そのものには異論はないけれど、その中身が何を指すのかという議論がたくさんあった。最後に委員より確認しておきたいことはあるか。

□熊谷委員

数値では表せない部分について、評価に定量的なものは入れないということか。それとも、それは別に入れるということか。

■事務局

定量的なものは一切入れないということではなく、定量で表す部分と定性で表す部分という形で、両面から検討していく。

□朝日会長

全体として、定量で、データで取れるところは、どんどんやっていこうというご意見が多かったかと思うので、このことを念頭に次回以降審議していきたい。

本日の会議はここまでとする。

以上